



## 歴史の町を照らす灯りとして

400年の歴史を持つ有松鳴海絞の魅力に触れていただく「カフェ&バル 庄九郎」を今年2月にオープンしました。庄九郎というのは、有松鳴海絞の開祖である竹田庄九郎のことです。建物は、有松鳴海絞の歴史を受け継いできた竹田嘉兵衛商店の離れを改装したもので、歴史的な建造物を保存し活用しています。伝統の美や力に触れながら、出会いや交流を楽しんでいただく場ですね。歴史の町を照らす灯りのような存在になっていると思います。

改築費用は、歴史的な建造物を保存活用するために名古屋市と名古屋まちづくり公社が始めた「なごや歴史的建造物保存活用工事助成」を利用することになり、前提となるクラウドファンディングで一部の資金を調達することになりました。クラウドファンディングとはインターネットを通じて、幅広く資金を集める手法です。おかげさまで目標だった500万円を1カ月で達成し、助成も受けることができました。助成制度適用の第1号だそうです。

## 竹田嘉兵衛家7代目の長女

私は1943年に、竹田嘉兵衛家7代目の長女として生まれました。「竹田庄九郎」の流れを汲む一族のうち、唯一400年にわたって絞り商を続けてきた家です。それから男のように元気に育ち、旭丘高校では水泳に明け暮れ、東京の成城大学へ進学し、バンカラ女が花園のようなところで4年間を楽しく過ごしました(笑)。卒業後、名古屋の男性と結婚して2男1女の母になりました。

息子が共通一次試験を受ける歳になり、もう1回大学へ行こうと決心しました。司法試験を受けたかったから、死に物狂いで勉強して南山大学法学部と名古屋大学法学部を卒業したのですが、義父の介護をすることになり、司法試験はあきらめざるを得ませんでした。

義父の最期を看取ったあと、社会に役立つことがしたくて、若い女性の自立や国際化をめざ

# 有松鳴海絞400年の伝統に 触れて楽しむカフェを 最先端の手法で実現



有松鳴海絞が展示されている「カフェ&バル 庄九郎」

すフィニッシングスクール「FELICIA」を名古屋の八事に設立しました。卒業生の多くは素敵な生き方をしてくれて、大きな成果があったと思っています。その後、夫が急逝したため、しばらく夫の会社を引き継いだあと、有松に戻りました。

## チャレンジの姿勢がないと 伝統は守れない

8代目当主の兄を手伝ううちに、有松鳴海絞や伝統のある町並みはチャレンジの姿勢がないと守れない、今のままではいけないと考えるようになりました。そして2013年に亡くなった、絞りの研究家で作家だった弟の弟子たちと一緒に染色文化の継承・育成と有松鳴海絞の魅力発信を目的とした「NPO法人コンソーシアム有松鳴海絞」を立ち上げました。70歳を過ぎて私のやりたいことが見えてきたのです。

NPO法人の取り組みの1つ目は、有松鳴海絞の資料館の設立です。有松にはすでに絞会館があり、伝統工芸としての展示や発信を中心とするのに対し、資料館の方は、学術的・アートの要素を充実させていきます。2つ目は2018年に開かれる「国際絞り会議 in Japan」の開催です。会場は山形、名古屋、東京となっていますが、名古屋の実際の会場は有松、鳴海です。3つ目は「カフェ&バル 庄九郎」です。これは、いろんな人の協力で実現にこぎ着けました。

NPO法人の今後の目標としては、国際的に通用する絞りの商品開発です。それから町全体のレベルアップ。絞りに関する取り組みに対し、この町には理解とサポートがあります。温かさを感じます。これも伝統の力、町の力だと思います。



NPO法人コンソーシアム有松鳴海絞 代表  
カフェ&バル 庄九郎 店主

中村 倭子さん

なかむら よしこ / 有松鳴海絞を受け継ぐ竹田嘉兵衛家7代目の長女として生まれる。成城大学、南山大学、名古屋大学卒。有松鳴海絞と伝統の町並みを保存・発信するNPO法人を設立。その活動の一環として2017年2月、有松にカフェをオープン。